

北海道

国際理解教育
研究協議会

会報

第35号

会長 山内武道

精眼 高橋承造

発行平成8年7月15日

世界で信頼され尊敬される謙虚な日本人の育成を……

＝人間としての基礎基本を大切にする教育の推進＝

北海道国際理解研究協議会 会長 山内武道
(札幌市立真駒内緑小学校長)

地球社会が現実化し、日本の教育も世界に通じる人間の育成を目ざさなければならぬことは、当然であり緊急を要すると考えられております。

しかし、現実には世界中で活躍している日本人の実態や今、教育界で大きな課題となっている“いじめの問題”が生まれている状況を見るにつけ、世界に通じる人間の育成は、いまだ十分に進んでいないと感じているところです。

一律主義を志向し、違いのあることをなかなか認めようとせず、数字で物事や人間を評価し弱い者を見下げる傾向のある体質から抜け出していない人間が多いことから、いろいろな問題が生じているのではないかと考えられます。

このことから、人間としての基礎基本を育てることをないがしろにし偏差値などに偏った教育を進めてきた結果として、このような問題が生じてきているのであることを教育現場で大切な子どもの指導に当たっている私達は、しっかりと自覚しなければならないと考えております。もちろん、それは社会や家庭の強い要請があつてのことではありましたが、これからは教育の本質である“子ども達が、将来、立派な枝や葉をつけるための、根っこを育てる営み”に力を入れ、人間としての基礎基本（根っこ）をしっかりと育てていきたいと思つています。そのことが、世界の人々に信頼され尊敬される日本人の育成にも結びつき、世界の平和と発展のために貢献できるようになるとともに、“いじめの問題”の解決にも向かうものであると考えています。

❖❖❖❖❖❖ 本協議会へ期待されること ❖❖❖❖❖❖

北海道国際理解教育研究協議会

事務局長 高橋 承造

(札幌市立澄川南小学校教頭)

北海道国際理解教育研究協議会は、今年第17回全道研究大会を札幌市の真駒内緑小学校にて開催いたします。そして、来年度は釧路市におきまして、北海道では3回目の全国大会を開催する予定になっております。

本協議会の歴史を振り返ってみますと、昭和52年に北海道から海外の教育施設に派遣された12名の教師が、国のお金で体験させていただいた貴重な経験を、何とか北海道の教育へ還元する事により恩返しをしたいとの、素朴な願いから出発したとのことです。

当時は、外国へ行くこと自体が珍しい事でしたから、学校教育の中での国際理解の必要性はほとんど意識されていなかったと思われま

しかし、今や科学技術の発達と共に社会は急速に大きく変わり、人類は短期間のうちに帰国子女教育や異文化理解等のレベルを越え、ボーダレス社会から地球家族としての生き方を模索しなければならない時代にさしかかっているのではないのでしょうか。

平成4年度から完全実施されております小学校の学習指導要領でも、4つのねらいの1つに国際理解教育が掲げられました。これからさらに予想されます社会の大きな変化に主体的に対応し、全世界の人達と手を取り合っ

て、心豊かな人間の育成を願っているからです。本協議会では、今年度から『広く世界へ目を開き、豊かに・たくましく生きる児童生徒の育成』と言う研究主題を掲げ、21世紀へ向け地球家族のリーダーとして力強く活躍する児童生徒の育成をめざしたいと考えております。それは、外国語を上手に話したり・外国の事をたくさん知っているだけの子どもを育てるのではなく、人間尊重の精神を基盤として多元・多面的に物事を捉えて判断し、主体的に行動できる能力や態度を身に付けた児童生徒に育成していく事だと考えています。

そして、それは特定の教師や学校だけが

できる授業と言うものではなく、「いつでも」「どこでも」「だれでも」ができる授業であり、そのような授業を通し達成されなければならないことだと思います。

そんな授業を求め実践していくことが、本協議会へ対して期待されていることではないのでしょうか。『広く世界へ目を開き、豊かにたくましく生きる児童生徒の育成』の研究主題のもとに、全道17地区の会員の皆様と、知恵を出し合い・情報を交流し合い・実践を公開し合い、期待される授業の実現をめざす架け橋となるよう事務局を運営してまいりたいと思います。

微力ではありますが、北海道の国際理解教育研究協議会の発展に努めてまいりたいと存じますので、会員皆様のご協力とご支援を心よりお願い申し上げます。

平成8年 運 営 方 針

本会は、会員相互の研修と連携互助の精神により、会員の資質並びに機能向上を図りもって北海道の国際理解教育の充実・発展に寄与することを目的として活動する。

○他文化・共生社会に生きる児童・生徒のために、組織的に研究・研修を重ね、その成果を広げていく活動の充実と推進に努める。

○本会は、学校教育の枠を越え、目的を同じくする社会教育・民間団体・ボランティア等との連携を図り、その『架け橋』としての役目を担う。

<本年度の活動の重点>

(1) 各地区の会員相互の連携を一層密にし、組織の強化と活動の充実を図る。

ア) 各地区・各支部の研修会・事業等の交流 イ) 帰国報告会

(2) 会員の資質を高める研修の充実と、国際理解に貢献する他団体への参加を図る。

(3) 広報活動の充実を図る。

平成7年度 会 務 報 告

平成7年

3・6 平成6年度 理事会・総会 (ホテル・アカシア)

平成7年度 在外教育施設派遣教員激励会

4・20 全国大会 (平成7年度 広島) 提言者決定 石狩 堀川俊司

7・17 第2回国際理解・国際協力のための作文応募 (知事室国際企画)

7・22 国際ジュニアアートキャンプ オリエンテーション (会長・事務局長)

8・8 全国海外子女教育研究大会・全国国際理解教育研究会 全国理事会
(広島大会) 出席 事務局長・釧路地区会長

8・31 札幌国際理解教育研究大会

10・1 小学校国際理解教育指導資料『いつでも・どこでも・国際理解』完成

10・20 北海道国際理解教育大会『上川・旭川大会』

12・8 釧路地区国際理解教育研究大会

平成8年

1・9 平成8年度 在外教育施設派遣教員名簿 (道教委より)

1・20 北海道国際協力フォーラムに参加 (会長・事務局長他)

2・15 平成8年全国大会 (佐賀) 報告者決定 上川旭川地区会長 五十嵐一之

3・1 平成7年度 帰国報告集完成

3・13 平成8年度 理事会・総会 (ホテル・アカシア)

平成7年度 在外教育施設派遣教員報告会

平成8年度 在外教育施設派遣教員激励会

平成8年度 会務計画

8. 3. 上 理事会・総会（平成8年度 役員決定）
4. 中 平成8年度国際ジュニアアートキャンプ打ち合わせ
4. 下 道教委挨拶（新旧役員）・全国大会 提言者決定
5. 中 第一回事務局会議・各役員へ委嘱状送付
6. 上 道教委・札幌市教委 平成8年度全道大会（札幌大会）開催報告
第17回北海道大会「札幌大会」案内発送・第二回事務局会議
6. 下 道教委へ挨拶並び業務打ち合わせ・会員名簿作成
7. 上 第三回事務局会議・会報発行「N035」
7. 中 「平成8年度帰国報告集」原稿依頼
7. 下 国際ジュニア・アートキャンプ オリエンテーション
8. 1 第23回全国海外子女教育研究大会
国際理解教育研究協議会 全国理事会（佐賀）
8. 上 国際ジュニアアートキャンプ
9. 上 第三回事務局会議 会報発行「N036」（道大会案内）
- 10.10 全道理事会・総会
- 10.11 第17回北海道国際理解教育研究大会「札幌大会」
第6回全国海外子女教育研究協議会 北海道ブロック大会
第12回札幌国際理解教育研究大会（真駒内緑小他）
11. 上 第4回北海道アジェンダフォーラム（大学生中心）
国際理解の助言者派遣
11. 下 平成8年度「帰国報告集」作成打ち合わせ（道教委）
12. 中 平成9年度（8月）国際ジュニアアートキャンプの打ち合わせ
9. 1. 中 道教委へ打ち合わせ「派遣者研修会・帰国報告会」について
1. 下 第五回事務局会議（在外教育施設派遣教員研修会に向け）
2. 上 会報発行「N037」（道大会報告）
・平成9年度派遣教員研修会案内・全国大会分科会発表者募集
「平成8年度帰国報告集」完成
2. 中 第六回事務局会議・平成9年度役員選考
3. 上 理事会・総会 平成9年度在外教育施設派遣教員事前研修会
平成8年度海外派遣教師帰国報告会
平成9年度在外教育施設派遣教員激励会

平成8年度 北海道国際理解教育研究協議会 役員一覧

《 顧問 》

中山 素水 (北海道工業大学教授)
 本田 哲也 (初代会長)
 木皿 弘勝 (第2代会長)
 千葉 福男 (第3代会長)
 磯貝 登 (第4代会長)
 大泉 弘 (第5代会長)
 石田 省子 (第6代会長)

《 会長 》

山内 武道 (札幌市立真駒内緑小学校校長)

《 副会長 》

大瀧 勝 (札幌市立真駒内曙中学校校長)
 一関 庶路 (札幌市立しんえい幼稚園長)
 関 全 (滝上町立滝上中学校校長)
 五十嵐一之 (旭川市立高台小学校校長)
 森田 勉 (乙部町立乙部中学校校長)
 田畑 雅皓 (釧路市立武佐中学校校長)
 山上 貞次郎 (広尾町立広尾中学校校長)

《 監事 》

菖蒲田正満 (千歳市立桜木小学校校長)
 大野 重行 (室蘭市立東中学校校長)

《 理事 》

藤本 伸治 (木古内町木古内小学校校長)
 小笠原 雅 (函館市立鱒川小中学校校長)
 上坂 功 (三笠市立萱野中学校校長)
 菊地 忠敬 (共和町立共和中学校校長)
 庄司 昭志登 (豊富町立豊富小学校校長)
 青山 信一 (標津町立川北中学校校長)
 笹川 幸一 (浦河町立萩伏小学校校長)
 高橋 徹 (小樽市立奥沢小学校校長)
 富田 泰雄 (留萌市立沖見小学校校長)

《 事務局 》

会長 山内 武道 (札幌市立真駒内緑小学校校長)
 事務局長 高橋 承造 (札幌市立澄川南小学校教頭)
 次長 藤原 勲夫 (札幌市立平岡小学校教頭)
 次長 真木 孝輝 (札幌市立拓北小学校教頭)
 研究部長 中村 淳 (札幌市立真駒内緑小学校)
 副部長 作田 道武 (札幌市立石山中学校)

副部長 高橋 宏 (札幌市立稲穂中学校)
 研修部長 広瀬 保志 (札幌市立三角山小学校)
 副部長 中村 一治 (当別町立当別小学校)
 広報部長 斎藤 吉文 (札幌市立清田緑小学校)
 副部長 石塚 信彦 (岩見沢市立幌向小学校)
 組織部長 佐藤 稜子 (三笠市立三笠中学校)
 副部長 類家 斉 (札幌市立真駒内緑小学校)
 庶務部長 池田 幸一 (札幌市立八軒西小学校)
 副部長 古川 義明 (札幌市立大谷地小学校)
 会計部長 澤田 崇 (札幌市立篠路小学校)
 副部長 清水 博 (瀬棚町立馬場川小学校教頭)

《事務局》 005 札幌市南区澄川5条13丁目7-1
 札幌市立澄川南小学校内 011-584-2115

[札幌地区]

会長 大瀧 勝 (札幌市立真駒内曙中学校校長)
 副会長 羽賀 富士雄 (札幌市立富丘小学校校長)
 橋本 フミエ (札幌市立山鼻中学校教頭)
 事務局長 佐野 和人 (札幌市立北九条小学校教頭)
 次長 池田 幸一 (札幌市立八軒西小学校)
 次長 大竹 伸一 (札幌市立明園中学校)
 次長 後藤 宏 (札幌市立二条小学校)

[石狩地区]

会長 菖蒲田正満 (千歳市立桜木小学校校長)
 副会長 大塚 広二 (恵庭市立恵庭中学校校長)
 森田 紀宏 (千歳市立東千歳中学校校長)
 事務局長 遠藤 優 (広島町立緑陽中学校教頭)
 次長 板垣 修 (恵庭市立恵み野旭小学校)

[空知地区]

会長 上坂 功 (三笠市立萱野中学校校長)
 副会長 舟崎 征二 (幌加内町添牛内小学校教頭)
 佐藤 稜子 (三笠市立三笠中学校)
 大津 外志男 (栗山町立栗山中学校)
 事務局長 石塚 信彦 (岩見沢市立幌向小学校)

[日高地区]

会長 笹川 幸一 (浦河町立萩伏中学校校長)

副会長 清水 聰 (門別町立賀張小学校校長)
事務局長 根城 健 (浦河町立堺町小学校教頭)

[十勝地区]

会 長 山上 貞次郎 (広尾町立広尾中学校校長)
副会長 桑谷 昌芳 (帯広市立東小学校校長)
笠松 信一 (浦幌町立浦幌中学校校長)
事務局長 菅野 達夫 (帯広市立光南小学校校長教頭)
次長 鎌田 一寿 (芽室町立芽室南小学校)

[上川・旭川地区]

会 長 五十嵐一之 (旭川市立高台小学校校長)
副会長 貝津 肇 (旭川市立千代ヶ田中学校校長)
佐竹 光夫 (美瑛町立上明德小学校校長)
関本 静雄 (東川町立東川第一小学校校長)
三谷 興 (鷹栖町立北斗小学校校長)
小川 雅美 (旭川市立東雲小学校校長)
事務局長 田山 裕 (旭川市立新町小学校)
次長 佐藤 努 (旭川市立近文小学校)

[網走地区]

会 長 関 全 (滝上町立滝上中学校校長)
副会長 伊興田浩彦 (留辺蘂町立留辺蘂小学校校長)
田淵 隆男 (上湧別町立湧別小学校校長)
国安 民男 (興部町立宇津小学校校長)
事務局長 松岡 勝利 (興部町立興部中学校教頭)

[宗谷地区]

会 長 庄司 昭志登 (豊富町立豊富小学校校長)

[胆振地区]

会 長 大野 重行 (室蘭市立室蘭東中学校校長)
副会長 米沢 克己 (虻田町立洞爺温泉中学校校長)
依田 俊秀 (越前 越前小牧啓北中学校校長)
夏目 興市 (虻田町立花和小小学校校長)
木山 春生 (壮瞥町立久保内中学校校長)
事務局長 茨目 幸良 (室蘭市立日新小学校校長)
次長 山田 真久 (苫小牧町若草小学校教頭)

[留萌地区]

会 長 富田 泰雄 (留萌町立沖見小学校校長)
副会長 斎藤 哲 (小平町立達布小学校校長)
松木 勝徳 (留萌市立留萌高校教頭)

事務局長 笹森 文夫 (天塩町立振老小学校)

[後志地区]

会 長 菊地 忠敬 (共和町立共和中学校校長)
副会長 尾崎 宣文 (仁木町立仁木中学校校長)
須貝 亨 (俱知安町立東陵中学校教頭)
事務局長 射守谷秀治 (泊村立堀株小学校教頭)

[釧路地区]

会 長 田畑 雅皓 (釧路市立武佐中学校校長)
副会長 石澤 正 (釧路町立富原小学校校長)
高橋 武俊 (釧路市立湖畔小学校校長)
工藤 政志 (釧路市立寿小学校校長)
事務局長 樋原 永幸 (釧路市立興津小学校校長)

[函館地区]

会 長 小笠原 雅 (函館市立鱒川中学校校長)
副会長 坂口 直義 (函館市立大森小学校教頭)
本間 秀昭 (函館市立西中学校教頭)
事務局長 佐々木宏二 (函館市立日吉が丘小学校)

[渡島地区]

会 長 手代木 淳 (長万部町立長万部小学校校長)
副会長 飯田 幸三 (知内町立涌元小学校教頭)
田口 公紀 (八雲町立八雲中学校教頭)
事務局長 阿部 正憲 (長万部町立長万部小学校)

[松山地区]

会 長 森田 勉 (乙部町立乙部中学校校長)
副会長 山本 善保 (厚沢部町立厚沢部小学校校長)
事務局長 豊田 収 (上ノ国町立上ノ国中学校教頭)

[小樽地区]

会 長 高橋 徹 (小樽市立奥沢小学校校長)
副会長 高橋 悦男 (小樽市立未広小学校校長)
青木 俊樹 (小樽市立量徳小学校教頭)
事務局長 佐々木俊郎 (小樽市立住吉小学校)

[根室地区]

会 長 青山 信一 (標茶町立川北中学校教頭)
副会長 高橋 将 (別海町立上春別中学校教頭)
山崎 守 (標津町立中標津東中学校教頭)
事務局長 阿部 正信 (別海町立上風連小学校教頭)

お知らせ

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

第23回

全国海外子女教育研究大会

全国国際理解教育研究大会

佐賀大会

☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

主 催 全国海外子女教育・国際理解教育研究協議会

佐賀県海外子女教育・国際理解教育研究協議会

大会主題 世界の人びとと共に生きる子どもの育成

～コミュニケーション力の育成をとおして～

期 日 平成8年8月1日(木) 2日(金)

会 場 佐賀市文化会館

日 程 8月1日(木) 開会式

記念講演予定 九州大学 江淵 一公 氏

『異文化共生社会の教育課題』

分科会・レセプション

8月2日(金) 基調報告

シンポジウム

『世界の人びとと共に生きる子どもの育成』

分科会

①帰国児童生徒の教育の現状と課題

提案発表 後志地区 余市東中学校 渡辺 常彦教諭 他

②在外教育施設等での教育とその課題

③学校現場における国際理解教育(実践活動と諸問題)

提案発表 上川・旭川地区会長 五十嵐 一之 他

テーマ「国際理解教育の構造化と実践化」

提案発表 釧路地区 山内 正樹教諭 他

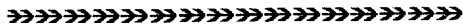
④地域社会における国際理解のための活動

(実践活動と諸問題)

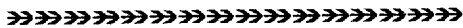
連絡

高橋 承造 (札幌市立澄川南小学校)

電話 011-584-2115



各地区の研究報告



[札幌]

5月10日 公開研修会『帰国報告会』 札幌市立北九条小学校

『パリ日本人学校の勤務をおえて』札幌市立真駒内緑小学校 類家 斉

『台北日本人学校の勤務をおえて』札幌市立あやめ野小学校 国島 知章

*札幌地区では小学校部、中学校部に分かれ10月の全道大会に向け研究部会がもたれています。

[石狩]

全道大会石狩大会での高い評価を受けた石狩地区の平成7年度の活動報告です。

平成7年 10月 上川・旭川大会での提言

第3分科会 石狩花川中学校教諭 大橋 則夫

第5分科会 北海道立教育研究所教育行財政研究室長 中村 保

第6回石狩管内国際理解教育研究大会

平成7年 11月24日 千歳市立向陽台中学校

授業公開 中学2年「道徳」 藤野 十志幸 教諭

講演 『シドニー日本人学校での勤務を終えて』

千歳市立日の出小学校校長 末永 通吉



◇ 生命を育む釧路湿原から未来を創る子らを求めて ◇

◇ 第24回全国海外子女教育・国際理解教育研究大会 ◇

◇ 北海道大会（釧路）のご案内 ◇

◇ テーマ『豊かでたくましい心を持ち、世界にはばたく児童・生徒の育成』 ◇

◇ 平成9年 7月30日～31日 ◇

◇ 釧路市生涯学習センター（まなぼっと幣舞） ◇

◇ ～ 授業公開 記念講演 分科会 パネルディスカッション ～ ◇

◇ 連絡先 釧路地方国際理解教育研究会会長 ◇

◇ 田 畑 雅 皓（釧路市武佐中学校校長） ◇



各地区での研究会などの予定がありましたら次号にのせたいと思います。

事務局までお知らせください。

平成8年3月帰国 在外教育施設派遣教員一覧

派遣 年度	管内	所 属	職名	氏 名	派 遣 先	
					(国名) 日本人学校名	職名
平 成 5 年 度	石狩	浜益村立浜益中	教頭	水見 政一	(パナマ) パナマ	教頭 教諭 教諭 教諭
		札幌市立真駒内緑小	教諭	類家 斉	(フランス) パリ	
		札幌市立あやめ野小	教諭	国島知章	(韓国) 台北	
		札幌市立札幌北中	教諭	五十嵐直幸	(インド) ニューデリー	
	渡島	南茅部町立磨光小	教諭	田畑俊夫	(コスタリカ) サン・ホセ	教諭
	後志	蘭越町立目名小	教諭	徳光 茂	(韓国) 台中	教諭 教諭
		小樽市立望洋台小	教諭	加藤達子	(マレーシア) コタ・キナル	
	空知	芦別市立芦別小	教諭	澤井登紀子	(ロシア) モスクワ	教諭
	上川	旭川市立陵雲小	教諭	森峰智子	(マレーシア) ペナン	教諭 教諭 教諭
		旭川市立啓明小	教諭	坪内夕季子	(大韓国) 釜山	
		旭川市立神楽中	教諭	岸 小夜子	(パナマ) パナマ	
	留萌	羽幌町立羽幌小	教諭	日比生 究	(ブラジル) リオ・デ・ジャネイロ	教諭
網走	興部町立興部小	教諭	藤田 俊一	(ブラジル) ベレーン	教諭 教諭	
	留辺蘂町立留辺蘂小	教諭	鈴木 俊二	(ドイツ) フランクフルト		
胆振	苫小牧市立啓北中	教諭	道原 義博	(イギリス) ロンドン	教諭 教諭	
	登別町立登別温泉中	教諭	波川 賢一	(ドイツ) ベルリン		
十勝	忠類村立忠類小	教諭	伊澤 昭宙	(イラン) テヘラン	教諭 教諭 教諭	
	更別村立更別小	教諭	梶原 源基	(アメリカ) ニュー・ヨーク		
	帯広市立花園小	教諭	橋場 仁	(アメリカ) ロス・サン・ジェルス(韓)		

3年間の派遣ご苦労様でした。今後の会での活躍をお願い致します。

海外からの便り

海外教育施設に派遣の先生方よりお便りが届いています。

平成5年度派遣 ブラジル マナオス日本人学校 河野 匡宏先生より（広島町立広葉中学校在籍）元気なお便りが届いています。学校事情により任期一年の延長が決まりましたとのこと。どうぞお体にお気をつけられください。

平成5年度派遣 韓国 釜山日本人学校 坪内 夕季子先生より（帰国後所属校 旭川市啓明小学校在籍）プサン日本人学校での生活と韓国での異文化理解を深められている姿を綴ったレポート『プサン・チュルパン』最終号（60号）が3月に届いておりました。

平成5年度派遣 マレーシアペナン日本人学校 森峰 智子先生よりも（帰国後所属校 旭川市立陵雲中学校）ペナン便り『アパ カァ バー』最終号が届いておりました。

共に最終号では3年間の貴重な経験とアジア人としての考察が述べられていました。3年間のご苦労様でした。海外体験を今度は北海道の教育に生かしてください。ご活躍お願い致します。

平成7年度派遣 ブラジル・マナオス日本人学校 高木司先生より（附属旭川小学校在籍）元気なお便りが参っております。マナオスの厳しい自然の中で活躍中とのこと。特に、日本チームがオリンピックで王者ブラジルと対戦することになり、在住邦人の間では少々心配なこともでてきたようです。現地ならではのレポートがきています。

『初戦、引き分けか惜敗で好スタート』 朝日新聞衛星版

⊗⊗⊗ 『初戦、3点差で勝って波にこ乗り金』 当国グローボ紙 ⊗⊗⊗

アトランタオリンピックのサッカー予選で、同じグループにブラジルと日本が入ったこととはご存じかと思います。両国の新聞記事を比較してみると大変興味深いものがあります。28年ぶりに出場の日本は初戦で対ブラジル戦。（負けを前提として）善戦して結果よしの記事。一方、今回のオリンピックでは本腰を入れて金をねらいに出たブラジルは、3点差勝利でまずまずといったところ。

当地の新聞では『日本は近年、急にレベルをあげてきた国。前回のWカップアメリカ大会にも出場できたはず。今回は順当にアジア代表に。当国からもJリーグに多くの選手・指導者が渡り、代表チームもスピードを持ち味としている』とコメントがありました。記事では全く負ける気がしていないようです。

ブラジルではWカップやオリンピックなどの国際大会や、国際試合は欠かさずにTV中継します。ゴールする度に町中では花火があがり、爆竹の嵐となります。ブラジル勝利の

後には定員オーバーの自動車が何十台と群れをなし、大きな国旗を翻して街頭パレードをします。車に乗っているのは若者だけではなく、オジサンたちも多数います。夜を徹してガソリンがなくなるまで走り続けるとのことです。その光景には、我々は恐ろしくて表へ出ることはできません。

ブラジルが負けた場合には、道路脇に停めてある自動車がみなペコペコになると言われています。

ですから当国の外交・治安を考えると、日本が間違っても勝利すると大変なことになってしまうと私たち在外邦人の間で囁かれています。

初戦でブラジルがつかずくと大騒ぎになるのは必然です。

平成7年度派遣 インドネシア・バンドン日本人学校 廣島 直先生より（札幌市立平岡南小学校在籍）元気な便りが届きました。あまりよくない食料・水事情さらに頭を悩ます使用人との関係などなかなか大変なようです。

バンドン生活事情① 単調な食糧事情 ～もち米をインディカ米に～

当地の食糧事情は、近年少しずつ改善がなされておりますが、食糧の基本となるべく『水』が衛生面で思わしくないことや冷凍設備が不十分なためでしょうか、現地ではほとんどなまものはたべる習慣はありません。ですから新鮮な魚を手に入れることがほとんど出来ません。最近、日本本食のお店が開店しましたが、そこでも魚類はほとんどが冷凍のもので、生の魚や刺身はたまに売っている程度です。

米は、現地米だと5kg300円ほどで買えますが、インディカ米のため、もち米を混ぜなければ日本米らしく食べることができません。米不足で話題になったタイ米と同じです。日本人の需要（ジャカルタは現在推定1万人）が増えてきたため、インドネシア産日本米も近年売っています。私たちはカリフォルニア米を食べていますが野菜も結構手に入りますが、日本でいう自然食品のようなもので、虫食いをしているものや形の整っていないものが多くあり、ある意味では合理的とも言えます。

ニンジンやだいこん、青菜などは、子どものままごと遊びにでも使うような小さなものでも束にして売っています。ものを大切にするといい観点では大変よいことだと思います。しかし、農薬を使わないとなると、野菜に寄生虫等が卵を生んでいる可能性も高いので、ぎょう虫や寄生虫を体内に抱えている人は、こちらでは現地の人、邦人を問わず確率が高いようです。

バナナ、パイナップル、メロン、スイカは年中あります。ランブータン、マンゴ、マンゴスチンなど旬になると安く手に入ります。しかし食生活全般はどうしても単調になりがちです。



～日本人をそだてる国際理解教育～

中教審が、「審議のまとめ」を公表した。その中で、今後の教育のあり方を提言し、わが国の国際化の進展に伴う国際理解教育の重要性と学校現場での具体化にむけての提言をしている。

これらは、本会が長年にわたって実践、研究してきたそのものであり、本会の重要性を国が認めたとはいえる。英会話の授業の総合学習での導入など、新たな教育活動の中で様々な志向が試みられると思われるがその時、本会が果たす役割は大変重要であると考えます。しかし、ややもすると「国際理解教育＝英語」と考えられている現状では、国際理解教育が1つの教科として捉えられ、「一人の日本人」を育てる部分を見失われる可能性も秘めている。もう一度、教室の子供たちと、未来の世界を考えながら「21世紀に生きる日本人」を子供たちとともに考えていきたい、ものである。

◆◆◆◆◆ 図 書 紹 介 ◆◆◆◆◆

開 発 の た め の 教 育

～ユニセフによる地球学習の手引き～

(財)日本ユニセフ協会学校事業部

開発のための教育担当班

この本は、ユニセフのニューヨーク本部「開発のための教育課」が、1992年に作成した指導者用の手引書を、日本ユニセフ協会が、パイロットバージョンとして紹介したものである。

この5章からなる手引書の内容は、「開発のための教育」の概念並びに学習過程を本当の意味での地球学習に転じていけるように実践的な活動例をまとめたものである。

ユニセフは、「開発のための教育」の究極の目的を「地球市民」を育てることとし、子供たちが複雑に絡み合う世界で生きていくための準備をしなければならないと主張している。

そして、「相互依存」「イメージと認識」「社会正義」「対立と対立の解決」「変革と未来」を育てることが地球市民の目標を達成するために注目すべき5つのグローバル・コンセプトとしている。この手引書において、注目すべきことは、ユニセフの使命を、子供たちを地球市民を育てることとはきり言い切りその概念を整理していることだろう。このことは、ややもすると「あれも国際理解教育、これも国際理解教育」としていたわが国の国際理解教育に対して、一定のすすむ道を示してくれると考える。また、日本にむけて検証していないために若干まごつくことはあるが、レベル1、2、3、と年齢別にわけて準備した実践は、どの実践も、「目的」「教材」「進行方法」まで細かく説明されておりいますぐにでも、教室で実践できるものである。

教室を国際化するための実践書といえる。

◆◆ 事 務 局 会 議 か ら ◆◆

今年度からは事務局は高橋事務局長就任に伴い札幌市立澄川南小学校に置かれることになりました。事務局会では空知・石狩・札幌から集まった局員同士顔を合わせながら今年度の運営方針などについて話し合われました。今後も各地区の会員相互の連携を深め組織の強化と活動の充実を図り、会員の資質を高める研修活動のありかたなどなすべき課題は多くあります。会員の皆様の豊かな活動をめざし頑張っていきたいと思っております。

< 斎藤 吉文・石塚 信彦 >